

排出ガス・燃費測定

排出ガス・燃費測定は、全ての試験自動車を同一の条件で審査するため、シャシダイナモメーター上において、一定の走行モードを走行する際の排出ガス量及び燃費を測定することにより行われます。

① 走行抵抗の測定

空気抵抗値や、タイヤの転がり抵抗値を屋外のテストコースで実測



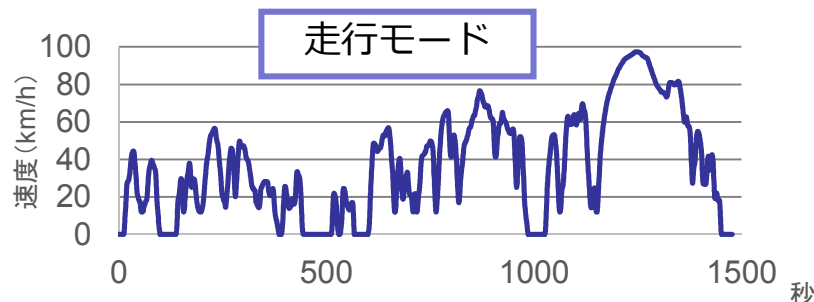
② シャシダイナモメーターの負荷設定

①で測定した抵抗値と等しい負荷となるよう、シャシダイナモメータを設定



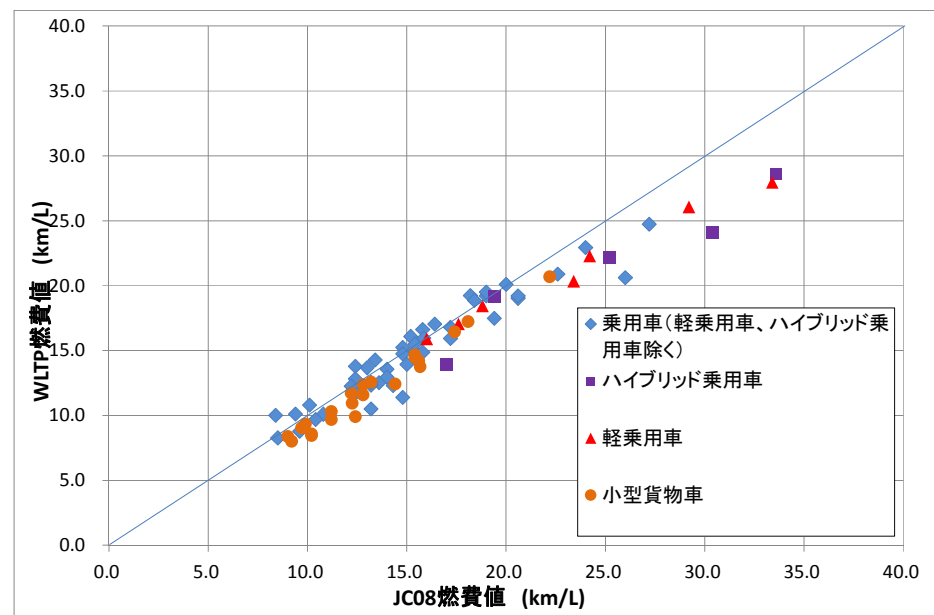
③ 排出ガス・燃費値の測定

23 ± 3 °Cの室内に
6～36時間の間放置



JC08モード燃費とWLTCモード燃費の関係の分析

WLTCモードは試験時の車両重量が増加する等、**より直近の使用実態を反映**。
→これにより、WLTCモード燃費はJC08モード燃費に比べ、同水準又は低くなる傾向。

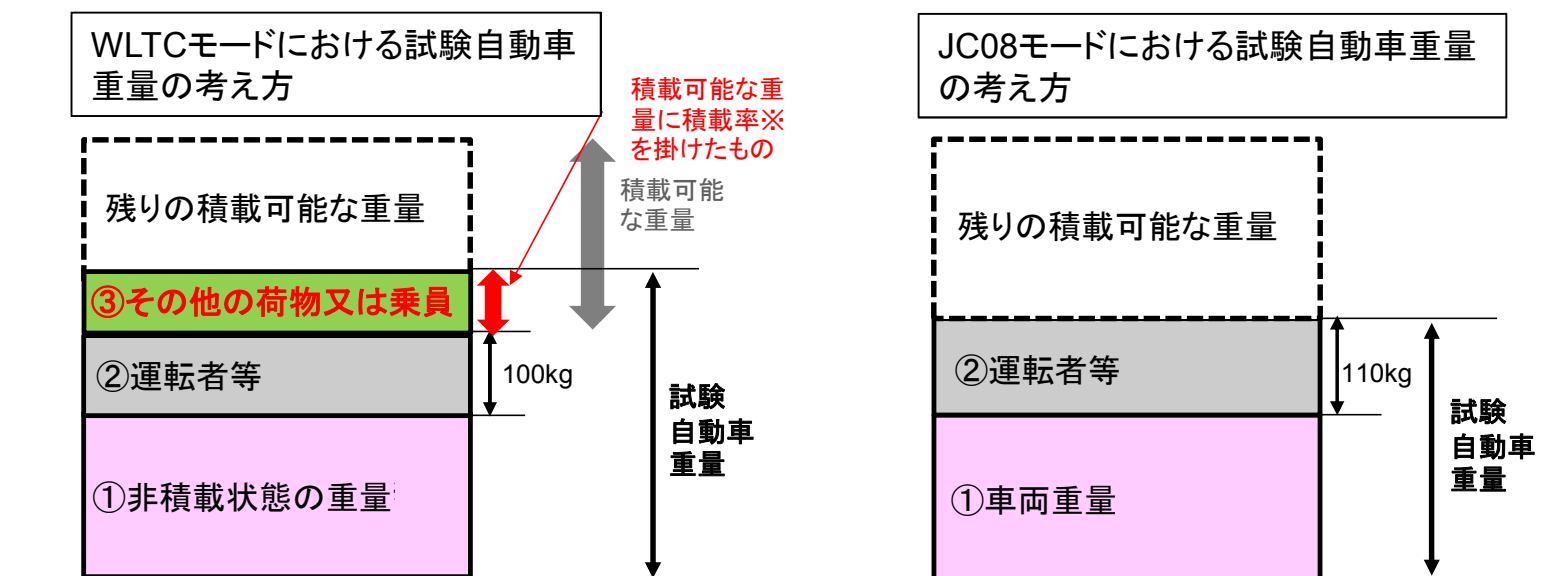


同じ車両におけるJC08モード燃費とWLTCモード燃費(車種別にマーカーを変更)

WLTCモードをJC08モードと比較した場合の相違点及び燃費への影響

- | | |
|------------------|---|
| ①試験自動車重量の増加 | 燃費が悪くなる傾向 |
| ②冷機状態での走行時間割合の増加 | |
| ③高速・高加速度の使用頻度増加 | |
| ④アイドリング時間比率の減少 | 燃費が良くなる傾向(ただし、アイドリングストップシステム搭載車には影響なし。) |

試験自動車重量の増加

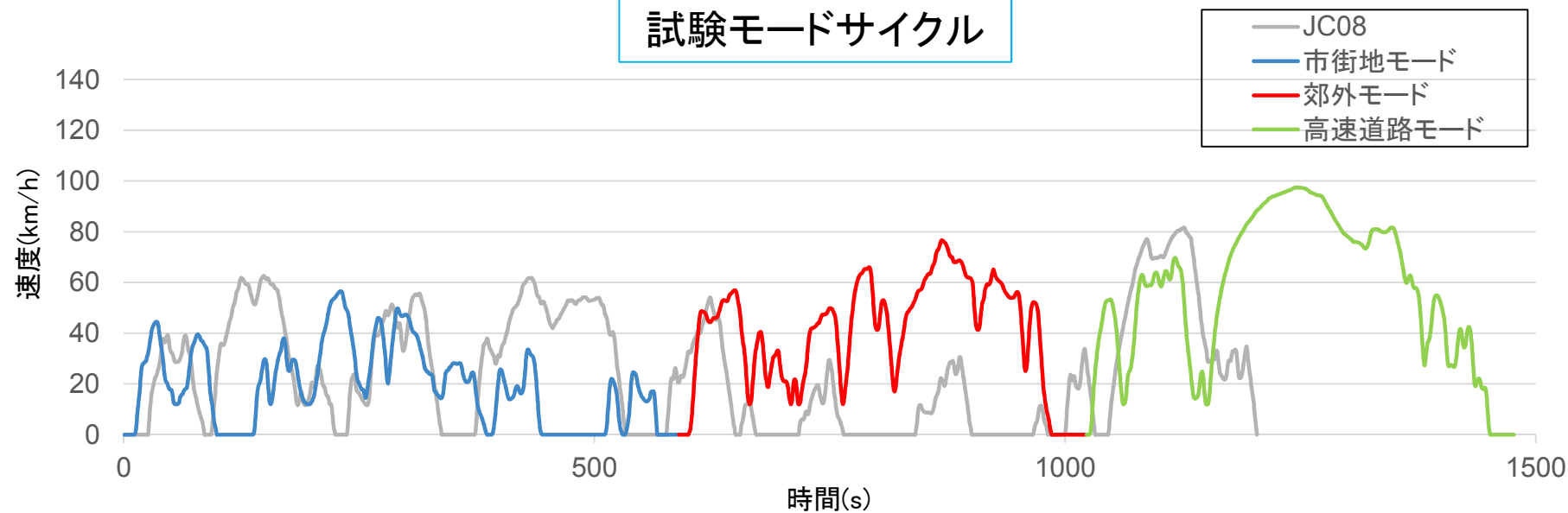


試験重量の増加例

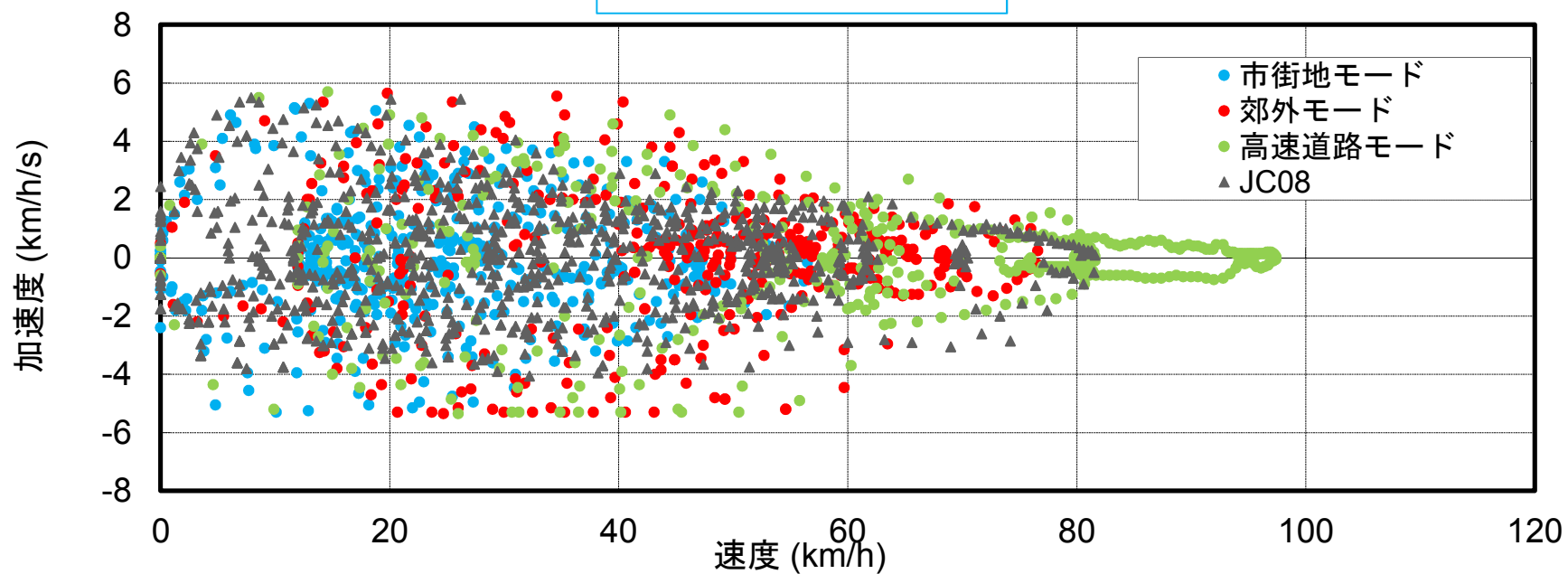
マツダ CX-3	:	(JC08) 1350kg	+45kg	→	(WLTC) 1395kg
トヨタ プリウス	:	(JC08) 1480kg	+59kg	→	(WLTC) 1539kg
ホンダ ステップワゴン	:	(JC08) 1780kg	+135kg	→	(WLTC) 1915kg

WLTCモードとJC08モードの比較

試験モードサイクル



速度・加速度分布



WLTCモードとJC08モードの比較②

	JC08モード	WLTCモード			
		合計	市街地モード	郊外モード	高速道路モード
平均車速(km/h)	24.1	36.6	18.9	39.5	56.7
アイドリング時間比率(%)	29.7	15.4	25.2	11.1	6.6
最高速度(km/h)	81.6	97.4	56.5	76.6	97.4
最高正加速度(km/h/s)	5.5	5.7	5.6	5.7	5.4
RPA※1	0.171	0.167	0.205	0.196	0.132
走行時間(s)	1204	1477	589	433	455
総走行距離(km)	8.17	15.01	3.10	4.76	7.16
コールドスタート比率(%)	25	100(市街地→郊外→高速道路の順で測定)			
試験時重量	車両重量 +110kg(2名乗車)	車両重量+100kg(1名乗車+手荷物) +積載可能重量の15%※2			

※1 単位距離あたりの速度×加速度の平均 ※2 小型貨物車の場合は28%